

事例10

< 事例概要 >

①30歳代後半/ 経産婦（帝王切開術歴あり）/ 自然妊娠。

②妊娠29週に前医より搬送。MRI検査で全前置胎盤と膀胱壁への穿通胎盤疑いと診断。

③血尿が出現し、穿通胎盤の膀胱内穿破と切迫子宮破裂疑いで、妊娠34週に緊急帝王切開術で児娩出。胎盤剥離は実施せずガーゼ圧迫。子宮摘出術を実施。

児娩出から約1時間後、出血量1,000 mL、自己血の返血開始。児娩出から約2時間後に赤血球液の投与を開始。児娩出から約3時間後、出血量は計3,000 mL以上、無脈性電気活動を認めた。その約30分後、高カリウム血症と判明し、グルコース・インスリン療法を実施するが、無脈性電気活動を繰り返す。児娩出から約6時間後、止血困難のためガーゼパッキングし閉腹、術中出血量10,000 mL以上。児娩出から約9時間後に死亡。

④癒着胎盤。

⑤解剖無、死亡時画像診断（Ai）無。